



令和4年
2月

学校だより

小野市立中番小学校
校長 田中康善

続く。コロナ禍！

★どんどん失敗、「失敗から学ぶ」こと
★「ピンチは、成長の大きなチャンス」！

3学期が始まり1カ月が過ぎようとしています。再び新型コロナウイルス感染症の感染拡大が広がっています。オミクロン変異株の影響は大変大きいと言わざるをえません。学校としては、日々の感染対策を講じ、「学校に持ち込まない・持ち込ませない」を徹底していきたくと考えています。その為、今後の教育活動には、ある種の制約・制限を設ける等、保護者の皆様にとっては、大変、窮屈な思い、残念な思い、ご不便をおかけすることになることをお許しいただきたいと思えます。ただ、小野市の「子供達の学びを止めない。」という方針は、堅持していきまます。感染状況によっては、本年度より、配備されました一人一台のタブレット端末の持ち帰りが進む可能性があります。このことは、今までにないことですので、保護者の皆様にとっては、非常に心配なことであるかもしれません。そのことについては、不備・不具合が生じる可能性もありますが、その都度、適切な対応を心掛けることが重要であると思えます。何事も「トライ&エラー」を重ねていくことが大切です。最初から上手いくと思っていると、できなかつた時に、「大変だ。」「やっぱり無理だ。」というよなマイナスの思いになってしまいがちですが、ものは考えようで、「さっさと失敗して次へ進もう！」と考える方がいいのかもしれない。失敗から学ぶ」それをどん

どん重ねること、成長のスピードは、格段に上がっていくのではないかと思います。「ピンチは成長の大きなチャンスでもある」と思えます。このタブレット端末の持ち帰りについては、学校と家庭の連携が非常に重要になります。家庭で分らないこと、学校が分からないこと、対応できないことが出てくるかもしれません。いや、きつと出てくると思えます。そのことを踏まえながら、子供達の教育の為、未来の為、相互に連携、助け合い、力を尽くしていきたくものです。保護者の皆様のご理解と支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

「幸せは言葉が創る」

★何気なく使っている言葉の意味を、隠れて
いる言葉を、今一度考えてみよう。

2月3日は「節分」。節分とは季節を分ける日という意味です。「立春」前日の節分は、立春が冬から春にかわる一年の始まりとされていたので、新年の邪気を祓う行事が行われる重要な日でした。今でも「豆まき」をしているご家庭も多いと思います。そして、4日は「立春」。まだ、寒さが残り、雪も時折り降ります。しかし、万物は徐々に春の息吹を調べていきます。生気に溢れ、何もかもが動き出す、そんな季節となってきました。3学期始業式で、「幸せは言葉が創る」という話をしました。これは、「幸せな言葉の周りには幸せが集まり、不幸せな言葉の周りには不幸せが集まる。」ということです。先日、PTA評議員会の折、「行ってきます」

一秒の言葉

小泉吉宏

「はじめまして」
この一秒ほどの短い言葉に、一生のときめきを感じることもある。
「ありがとう」
この一秒ほどの短い言葉に、人のやさしさを知ることがある。
「がんばって」
この一秒ほどの短い言葉で、勇気がよみがえってくることもある。
「おめでとう」
この一秒ほどの短い言葉で、しあわせにあふれることがある。
「ごめんない」
この一秒ほどの短い言葉に、人の弱さを見ることがある。
「さようなら」
この一秒ほどの短い言葉が、一生の別れになる時がある。
一秒に喜び、一秒に泣く。
一生懸命、一秒。
人は生きる。

「行ってらっしゃい」という挨拶の言葉のお話をさせていただきました。この短い挨拶の言葉にどんな意味、どんな言葉が含まれているのでしょうか。少し、考えてみてください。例えば、「行ってきます」は「行って（必ず無事に帰って）きます」、
「行ってらっしゃい」は「行って（必ず無事に帰って）らっしゃい」
「行ってらっしゃい」は「行って（必ず無事に帰って）らっしゃい」
「行ってらっしゃい」は「行って（必ず無事に帰って）らっしゃい」

今は予測困難な時代、中番小学校は、保護者の皆様、地域の皆様と共に、あらゆる教育活動を進めていきます。この厳しい事情・状況をご理解いただくとともに、この中番小学校を地域の学校として、あたたかく見守っていただき、これからも変わらぬ深い愛情とご理解、あたたかいご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。